

## 『社会を明るくする運動』

多久市立東原庁舎中央校 7年 野<sup>の</sup>田<sup>だ</sup>萌<sup>も</sup>々<sup>も</sup>香<sup>か</sup>

最近、小学校からスマートフォンを持っている人達が増えています。スマートフォンはラインや電話などができて、たくさんの人とつながる事ができる便利な機械です。しかし、その反面、スマートフォンを使っ  
ての仲間外しや、1人の子だけを外したグループで悪口を言いあういじめが増えています。このいじめは、現代だからこそおきるいじめで、私はラインやネット上でのトラブルを防ぐ方法を考えなければいけないと思います。私は今中学生で、私のクラスのほとんどの人がスマートフォンやタブレットを持っています。私の友達もスマートフォンを持っていて、お母さんに頼んで買ってもらったり、親が機種変更するついでに買ってもらった人がいます。このように、今の子供はいつでもどこでも電話やメールができて、ゲームやカメラなどの色々な機能がついているスマートフォンを持ちたがっています。そして、皆スマートフォンの事をゲーム機の進化版のような軽い気持ちでほしがっていると思います。でも私は、小学生や中学生にスマートフォンはあまり必要ないと思っています。それは、スマートフォンを持つとその事だけにしか集中できなくなると思うからです。スマートフォンの中で、一番皆が使っている機能はラインだと思います。このラインという機能は、グループなどをつかってメールのような物でやりとりをすることができます。このラインの中で、返信が遅かったり学校生活でのトラブルなどによって、仲間外しをしたり仲間から外される人がいます。その逆にラインでのトラブルにより学校生活が楽しくなくなったり、けんかをしてしまう事があります。そして新しい仲間をつかって、ラインで悪口を言いあいます。たとえ、悪口を言われている子がそれを見ていなくても、隠れて悪口を言うのはやってはいけない事です。そして、もしその子が気づいて、嫌な気持ち

になったら、それはいじめになると思います。ラインでは、直接人に言えない悪口を簡単にかく人がいます。直接でもライン上でも、人が傷つく事にかわりはありません。自分では、冗談のつもり言ってしまったとしても、相手によってとらえ方は違います。なので、ラインだからこそ一つ一つのメールに責任を持って、皆が楽しく過ごせる社会をつくっていかねばいけません。そして、人に言われて嫌な言葉は絶対に言わない、人にされて嫌な事は絶対にしないという事を、志がけてほしいと思いました。

市役所の玄関に、内閣総理大臣と佐賀県知事、そして多久市長のメッセージが貼ってありました。その中でも、「恕」の心について書いてある多久市長横尾俊彦さんのメッセージが、一番心に響きました。なぜかという、小学校から慣れ親しんでいた論語や、孔子様の教えにもある「恕」の心などが書いてあって、多久に住む私にとってとても身近に感じる事ができたからです。その中で取り上げられていた論語は、「己の欲せざるところ人に施すことなかれ」という論語です。この教えは、人にされて嫌な事をしない、人の身になって思いやりをするという意味です。そして、このメッセージにはこの教えを实践できる人づくり、地域づくりが大事であると書かれていました。次に、「恕」の心です。私の学校の校訓に「恕」があります。「恕」とは他を受け入れ認め、許しその気持ちを思いやる事、自分の事と同じように人の事を考える、その事こそ人生で一番大切な事だと孔子様は教えました。このメッセージで多久市長は「恕」の心が広がれば、より安全で安心な人類社会も可能になるはずだと述べています。私はこのメッセージを読んで、学校でも「恕」の心が広がれば、皆が学校生活を楽しく送る事ができ、そして周りにも広げていく事で、いじめなどが減るのではないかと思います。そしてやる事ができ、たくさんの人達、身近にいる人達が近くの人の事を気にかけてあげる事が大切だと思います。多久市長は、「恕の心あるコミュニティー」づくりが大切で、一部の人達だけではなく、犯罪などのない地域をつくるために、地域の人達皆が協力しなければいけないと述べて

いました。

今現在、日本ではたくさんの事件がおきています。しかし、処罰を受けた後に心を入れかえて、立ち直ろうとしている人もいます。私は、その人達を受け入れて、犯罪や非行のない地域をつくっていく事が大切だと思います。そのためには、たくさんの人達の力がいると思うし、すぐにはできないと思います。だけど、少しずつ犯罪や非行をする人がもう出てこないように、一人一人が改めて犯罪や非行がおこらない、おこさせないような社会をつくらうとする心を持つ事が大切だと思います。